

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

南信高体連登山専門部顧問雪上研修会 岡谷工業高校 丸山真明先生寄稿

実施日 2015年2月21日(土)

場 所 北安曇郡白馬村飯森 五竜遠見尾根 地蔵ノ頭～小遠見山

参加者 顧問のみ8名 (飯田高校1名、飯田OIDE長姫高校2名、下伊那農業高校2名、岡谷工業高校2名、赤穂高校1名【講師】)

快晴に恵まれた2月21日(土)、五竜遠見尾根において南信の顧問8名が参加して雪上研修会を行いました。当初の計画では、木曽駒ヶ岳の千畳敷で開催する予定でしたが、駒ヶ岳ロープウェイの運休により場所を変更しての開催となりました。

この時期まだ暗い早朝に、自宅を出発して五竜遠見スキー場へ集合しました。途中、安曇野市穂高、松川村と北上すると、ピンク色に染まる爺ヶ岳、鹿島槍、五龍岳などヨーロッパアルプスにも負けないくらい綺麗なモルゲンロートを拝むことができました。はやる気持ちを抑えながら、始発のロープウェイに乗り込みスキー場上部に着くと、早速、わかんやスノーシューを装着しました。そこからさらにゲレンデを上り詰め、地蔵ノ頭に着くころには、真っ青な空に吸い込まれるように五龍岳に続く尾根沿いには、スキーやスノーボードを担いだBC愛好者が登り始めていました。

ここからは、多くの先行者によってトレースが付けられている遠見尾根に向かい歩き出しました。わかんやスノーシューの歩きについて講習を受けながら、どこかぎこちなくのスタートとなりました。徐々に体が温まり、歩き方も慣れてきたところで、ラッセル体験に切り替わりました。膝まで積もった前日の雪が、ちょうど良い負荷となって一面を覆っている斜面を直登します。



足の運び方を教わりながら急登を進む

このラッセルは初体験者が多く、なかなか思うように進むことが出来ませんでした。わかんが有利だとか、スノーシューは不利だとか言いながら、膝の使い方や足の置き方を教わると、ペースも上がり、先頭を入れ替わりながら一汗かいて一ノ背髪で一本取りました。

雲ひとつ無い晴天、暑いくらいの日差しに照らされて、中遠見～大遠見～西遠見から続く白岳と武田菱がかっこいい五龍

岳が目の前に迫り、右に視線を向けると八方尾根の向こう側に白馬鑓、杓子、白馬岳が美しく並んで見えました。こんなに恵まれたロケーションに感謝しつつ、小遠見のピークを目指して稜線を歩き出します。



左の雪庇を避け先行者のトレースをたどる

ここから先は、稜線の東側に張り出した雪庇に注意しながら進むことになります。厳冬期に山には入る経験が少ない参加者にとっては、この雪庇の危険性を知る良い機会となりました。下から見上げればそれとわかるものの、稜線を歩き出せば、どこからが雪庇なのか判断が付きにくく、出来るだけ先行者のトレースをたどり慎重に進むこととしました。

途中、風の通り道ではふかふかの雪からクラスト状に変わっている場所もあり、雪

質の変化を感じながら、歩き方も変える体験もしながら、ロープウェイ終点から2時間半かけて小遠見山ピークへ到着しました。山頂からは、白馬三山、五龍岳はもちろん、バッドレス状の鹿島槍ヶ岳北壁が大迫力で迫ります。爺ヶ岳の左奥に槍ヶ岳の雄姿を拝み、美ヶ原のテレビ塔群と重なって富士山までも見ることが出来ました。

山頂で暖かい日差しを浴びながら、360°のパノラマを満喫している間にも、一人また一人とBCの方々が滑り降りていきました。多くの人たちが楽しんでいるんだと羨ましくも、装備にかかる値段を聞くとちょっと引いてしまいます。それにしても、最近の遭難のニュースの多さを考えると、安全には充分気をつけて行きたいものだと思います。



雪面に確保支点を作る

後ろ髪を引かれながらも、次の講習のために下山を開始しました。二ノ背髪と一ノ背髪の間付近の10mほど稜線から外れた斜面で、雪洞作り体験を行いました。まずは、稜線から急な斜面を下るため、雪面にピッケルを立て確保する技術を教わり、講師の池迫先生が張ったフィックスを頼りに斜面に下り足場の整地をしました。

スコップやスノーソーの使い方を教わりながら、参加者が半分に別れて雪洞掘りに取りかかりました。思うように雪をブロック状に取ることが出来ず、悪戦苦闘しながら、徐々に要領が掴めてくると、楽しくて仕方がありません。汗だくになりながら大人の雪遊びを満喫、完成後はお互いの雪洞をお宅訪問してその出来映えを確認しました。

大人2～3人が泊まれるほどの大きさで、2時間ほどかかってしまいましたが、初めてにしては、十分なできではなかったでしょうか。残念ながら泊まって鍋を



スノーソーとスコップを上手に使って大人の雪遊び

つつくことは出来ませんでした。貴重な体験をさせて頂きました。

あっという間に時間が過ぎ、イグルー作り体験までは出来ませんでした。充実した研修会となりました。南信地区は春の総体で登山競技を実施しており、山岳総合センターで行われる5月の研修会の日程と重なるため、今回の研修は大いに役立ちました。(本当はこの研修会に参加出来ると良いのだが…。)

また、顧問間でお互いの経験や取り組みも交流でき、とりわけ経験の浅い若手の顧問にとっては良い学習の場であったと思います。

こんな素晴らしい研修会をなぜ今まで行わなかったのだろうか？次年度以降も引き続き行うことで、生徒も参加出来るようにしていきたい。などと、参加した顧問たちは口々に感想を述べていました。(岡谷工業高校 丸山真明)

編集子のひとこと

長野県南信地区(長野県の諏訪・上伊那・下伊那地区)のとりくみです。5～6年ほど前(もっと前?)から、毎年、南信地区では研修会を開催しているとのこと。当初は、夏の沢登りをよく行っており、時には生徒も一緒に参加していたそうですが、今年は時期をずらして冬の研修会を行ったとのこと。冬山初心者を交えた極めて内容の充実した研修会の内容がわかると思うので、ご紹介した。だれでも最初は初心者。そしていつも初心に帰って確認。この2つは冬山のみならず、山の鉄則だなと感じた次第。(大西記)